

利根川水系中川・綾瀬川ブロック河川整備計画(変更原案)に対する意見と県の基本的な考え方

章節	頁	意見	基本的な考え方
<p>附図</p>	<p>32</p>	<p>◎今回の変更案に賛成です。 変更が早く認められ、変更で追加された調節池などが一日も早く完成することを望みます。 ◎理由は、今回追加された元荒川の調節池は、下記のような浸水の不安軽減につながるからです。 ◆不安のもととなった令和元年台風19号の状況 ○写真1は、一昨年(2018年)の10月13日(日曜日)、鴻巣市糠田にある私の生家のすぐそばで写した、台風直後の水田や道が水に浸かりました。少し水は引いていますが、それでも水を貯め込む機能があるといわれる水田地帯でさえ、水に浸かって通れない道路があちこちにありました。私が子供の頃は、これよりもひどいことが度々あり難渋しました。このところは絶えてなかったので、あの頃を思い出し不安な気持ちとなりました。 ○写真2は、同じ日のお昼頃、元荒川の写真です。場所は忍川と合流する場所のすぐ上流です。雑草に高さがあるため余裕があるように見えますが、実際は今にも溢れそうなギリギリ一杯のところの水の跡がありました。 ○写真3は、忍川側の様子です。建物が水に洗われそうです。 ◆不安とは ○10月12日夜に、スマホから避難勧告が突然鳴りだし、初めての経験で驚きました。隣の吉見町への呼びかけを最初に、北の行田市へ拡がり、ついに鴻巣でも「中山道から荒川寄り」の住民に避難を呼びかけ、不安が募りました。生家のある「糠田」は「中山道から荒川寄り」の中でも低いところでした。 ○もし、将来強い雨が続く中、写真で示したように満杯となった元荒川が消防学校あたりで荒川側にあふれ出れば、流れ出る量と降る雨によっては荒川に沿った低い田んぼが続く一帯の家屋や農地を洪水に巻き込まれながら、「糠田」まで流れ、その先鴻巣駅一帯の高台にさえぎられて「糠田」での水深は増す一方、ということになりかねません。まるで子供の頃のような感じです。 ◆最後に ○「糠田」を例にしましたが、ここに限らず計画の実現は、元荒川の上流から下流までどこまでもこのような不安を軽減できると思います。</p>	<p>変更原案(案)のままとします。 河川整備計画に基づき、必要となる治水施設の整備を着実に進めるとともに、流域全体で水害を軽減するための取組を進めてまいります。</p>



全般	全般	<p>整備計画の変更に賛成である。 令和元年の台風で大きな被害が発生し、世間の耳目を集めた「荒川中流右岸ブロック」の変更にとどまらず、「中川・綾瀬川ブロック」も変更しようとする点を評価する。 併せて、変更によって新たに位置づけられた元荒川の調節池などの施設はもとより、従前から計画されていた各種の事業の一日も早い完成を望む。</p> <p>埼玉新聞令和3年1月14日の一面トップの見出しは「水害の不安解消せず」、小見出しは「台風で浸水の寺尾地区」というものであった。 この記事は、川越市長選をめぐる市政の主な政策課題を探ったもので、市管理河川における平成29年と令和元年の台風被害への対応を市政課題の最初に持ってきた。</p> <p>災害が少ないといわれてきた埼玉県内において、水害対策が市政の主な政策課題トップとなったことが、これまでにあっただろうか。 気象の凶暴化やゲリラ豪雨とかの言葉を耳にする現在、この記事は、毎年のように梅雨前線豪雨被害や台風被害が繰り返される九州などのように、埼玉県でも水害への備えが他人事ではなくなったことの象徴のように感じられた。</p> <p>おりしも、埼玉県では2つの河川整備計画の見直しを行っている。令和元年の水害被害を踏まえ、今、新たな水害対策を盛り込むよう計画を変更するのは当然のことであり、高く評価する。</p>	<p>変更原案(案)のままとします。</p> <p>河川整備計画に基づき、必要となる治水施設の整備を着実に進めるとともに、流域全体で水害を軽減するための取組を進めてまいります。</p>
河川整備計画策定の背景と その内容	iii	<p>新たに、維持管理に関する事項を取り組んだ点を評価する。効率的な公共投資のためには、今ある施設を有効に長く使うことは重要である。 なお、「河川維持管理計画」を別途作成する、と記述されている。この計画が早く作成されることを望む。</p>	<p>変更原案(案)のままとします。</p> <p>早期に計画を策定し、河川管理施設の適切な維持管理に努めてまいります。</p>

1	15	<p>「今後の治水対策としては、～毎年のように大洪水が起きることを前提に～両面から備えを進めていく～」とある。</p> <p>洪水を力で無理やり抑え込み、被害を起こさせないことを目指すのではなく、被害が起きることを前提にその後の復旧・復興まで見据えた点を評価する。</p>	<p>変更原案(案)のままとします。</p> <p>河川整備計画に基づき、必要となる治水施設の整備を着実に進めるとともに、流域全体で水害を軽減するための取組を進めてまいります。</p>
3	28	<p>河川整備の実施に関する事項で、多自然川づくりについての記載があります。私は綾瀬川流域の自然を守る活動に参加しています。また、この流域でどのような野鳥が見られるか長年にわたり観察、調査をしています。当初思っていた以上に多くの野鳥が見られ、これまで55種類の野鳥を確認しました。私が調査対象としている区域は綾瀬橋－綾瀬新橋の流域ですが、そこには所々に河畔林、草地やヨシ原が存在し、自然が保たれています。自然があることによって、このように多くの野鳥が生息し、また飛来すると考えられます。</p> <p>今年は新型コロナのため中止となりましたが、これまで二十数年間毎年1月に近隣の小中学校3校共催で、この流域内綾瀬川冬鳥観察会が開催されています。小中学校、市民参加の自然に触れる意義がある観察会となっています。また、小学校の野外学習も行われてきました。</p> <p>3.1.1河川工事の目的、種類に、河川工事の実施にあたって配慮する点として多自然川づくりを基本とすると述べられています。また、地域の動植物生息・生育、繁殖環境の把握に務め配慮するとしています。</p> <p>是非、河川改修工事が行われる際は、生きものの生息地である河畔林、草地やヨシ原等が失われないよう要望します。整備計画にはこのような主旨での記載がありますが、一度失うと自然はなかなか回復しないのでよろしくご留意をお願いするものです。</p>	<p>変更原案(案)のままとします。</p> <p>河川整備にあたっては、必要に応じて環境調査を行うとともに、国、県、地元市町村、漁協、環境団体などの関係機関との協議や調整を行いながら進めてまいります。</p>
-	-	<p>○流域全体として洪水対策をすることはよい。</p> <p>氾濫することを見越して対策をたてる。</p> <p>市民が住んでいる所がどこまで水が来るかを知ってもらう。</p> <p>ハザードマップの活用を、説明会を開いて実施してほしい。</p>	<p>変更原案(案)のままとします。</p> <p>治水施設の整備だけでは防ぐことのできない水害に対して、住民が安全に避難するため、今後も、作成主体の市町村と連携し、ハザードマップの充実に努めてまいります。</p>

-	-	<p>○生物多様性に配慮した多自然護岸の考えはよい。 現地に今生えているものを大切にしてほしい。園芸種を入れるのはだめ。</p> <p>川岸は散歩、ランニング、自転車等、人が利用し楽しみ、野草野鳥がある所はいやしの場所であり、そこへ行くのはいやしのひとときです。</p>	<p>変更原案(案)のままとします。</p> <p>河川整備にあたっては、必要に応じて環境調査を行うとともに、国、県、地元市町村、漁協、環境団体などの関係機関との協議や調整を行いながら進めてまいります。</p>
3	36他	<p>庄兵衛堀川の近くで稲作をしているが、大雨や台風時に庄兵衛堀川から越水することや、庄兵衛堀川の水位が高くなり、水田や水路からの排水ができなくなることがある。</p> <p>その時期によっては、稲穂が数日、水に浸かることがあり、米の収穫量に影響がある。</p> <p>変更原案では、庄兵衛堀川の計画で、既存の調整池を活用することが新たに盛り込まれたため、大いに期待している。</p> <p>また、同じ久喜市内の他の河川でも同様の被害があると聞いている。</p> <p>このため、変更原案は現状に即した計画の見直しだと思うが、それらの計画をいっぺんに行うことは難しいと思うので、一つ一つ着実に実施することを期待する。</p>	<p>変更原案(案)のままとします。</p> <p>河川整備計画に基づき、必要となる治水施設の整備を着実に進めるとともに、流域全体で水害を軽減するための取組を進めてまいります。</p>
全般	全般	<p>私が住んでいる近くの道路は少し強い雨が降るとすぐに冠水します。近くに大きな調整池があり、中川に流れていると聞いています。その中川は今、徐々に改修が行われていますが、私達の生活を守るためにも一刻も早い改修をお願いいたします。</p>	<p>変更原案(案)のままとします。</p> <p>河川整備計画に基づき、必要となる治水施設の整備を着実に進めるとともに、流域全体で水害を軽減するための取組を進めてまいります。</p>